

第14回カツオ資源調査・保全分科会議事録

日 時：平成31年1月21日（月）12：30～14：00

場 所：高知大学 次世代地域創造センター 2F セミナー室

出席者：受田座長、市川（事務局）外 資料：参加者リスト

1. 開会

座長挨拶

2. 議題

（1）WCPFC15の報告

【WCPFC15の当日の序協】

- ・配布資料および写真（スライド投影）により受田座長から報告。
- ・12月11日に現地到着後、全体セッションに参加し、スモールワーキンググループの状況を視察した。
- ・議論の一つとして、北緯20度以南のビンナガマグロの目標管理基準値（TRP:Target Reference Point）があった。結論としてTRPが56%に決定された。ビンナガマグロも資源に懸念がある魚種である。この56%の数値設定が議論の俎上に上ったことは、来年度予想されるカツオの資源管理の議論において極めて重要と考えられる。現在のカツオの数値目標は50%とされている（いつまでに、などの具体は未定）。高知県の政策提言ではカツオを60%目標とするよう求めており、ビンナガマグロの結果はカツオにとっても期待の持てる内容かもしれない。
- ・会場内で休憩時間等に様々な団体と意見交換する機会があった。
- ・国際一本釣り基金（IPNLF:International Pole and Line Foundation）のメンバーと2時間ほどミーティングルームで意見交換した。アダム氏がIPNLFでのWCPFCおよびSDGsの担当者。日本国内にはまだIPNLFのメンバーはいない。
- ・インドネシア政府の副代表のトニー氏は高知大学の農学部（当時）の卒業生であり、細川先生、益本先生の研究室で博士号を取得されている。去年に引き続いての再会。
- ・ミクロネシア連邦のユージン氏とも去年に引き続いての再会。
- ・学習院大学の阪口功教授や北海道大学の児矢野マリ先生、早稲田大学の真田康弘先生とも会場で意見交換した。

- ・中土佐町 市川氏から補足。
- ・政府団に巻き網や遠洋カツオの関係者はいたが、沿岸カツオの関係者の出席は少なかった。自分達の出席に意味はあったと思われる。
- ・通訳の機械があつて良かった。音漏れしないようイヤホンなどもあつたほうが良い。

- ・高知大学 市川氏から補足。
- ・Tシャツで人目を引くことはロビー活動として一定効果があったように感じる。政府団からの見方に若干心配はあったが、問題なさそうだった。
- ・次回の WCPFC は今年の 12 月頃にパプアニューギニア
- ・今回、当初予定だったミクロネシアでも各国の参加者が収容できない問題があったので、島嶼国でやるにあたり参加者を絞るべきとの話もある。次回、我々が出席できる可能性があるかどうかは今のところ分からない。
- ・今年度、マグロの資源回復傾向が科学的に検証されており、翌年繰り越しができるかどうかは主な議論となった。カツオは今年度ほぼ議論なし。今年度は魚種による主張の違いなどは無かった。政府団の代表の太田審議官は明確なスタンスで国際的に交渉されていた印象がある。リーダーシップとして強力であるように感じた。

(2) 日本遺産の申請について

【日本遺産シンポジウム in 黒潮町】

- ・1月12日に黒潮町でシンポジウムを開催した。80名出席。文化庁から杉浦審議官にお越しいただき、他地域の日本遺産の事例などを講演いただいた。パネルディスカッションでは、パネリストから地元への愛着の視点からも日本遺産の重要性なども意見された。
- ・杉浦審議官から、魚に関わる日本遺産事例として「鯖街道」が参考になるなどのご意見もあった。近年は鯖の水揚げが減ってきており、文化を残すために養殖にも取り組んでいる。

【申請内容】

- ・中土佐町 市川氏から申請内容について説明。江戸っ子がカツオに熱狂し、日本橋の八丁路に高速船でカツオを運んでいた。同様に高知でも、宇佐に水揚げされたカツオが塚地坂を超え、仁淀川、荒倉を経て、高知市内へと2時間ほどで駆け抜けて届けられていた。高知のカツオ文化として、カツオを生で食べる文化が当時から今まで脈々と受け継がれている。
- ・申請書の概要として、【土佐の一本釣りの源流】【江戸期から続くこだわり】【漁師町の景観】【高度で繊細な食文化】【節づくりと女性の祈り】【海との共生】をストーリーとして作成した。
- ・ジョン万次郎は捕鯨船に乗っていたが、鯨が釣れないときはカツオを釣っていたとのことである。ジョン万次郎と一緒に遭難した筆之丞などの漁師は本格的な一本釣り漁をハワイ近辺で行っていたとの記述も残されている。
- ・高知県漁業振興課 田井野氏から地域活性化計画について説明。日本遺産に認定されると

3年間の補助期間がある。地域活性化計画では、各年度の補助金使用する事業計画を記載した。まず将来像(ビジョン)では、カツオ文化を発信することで愛着を持っていただき、文化財を活用していただくこと。すなわち、活用されることで、守ることに繋がることを意識してビジョンに盛り込んだ。実施体制では、カツオ文化日本遺産推進協議会が中心になる。日本遺産申請前に協議会が立ち上がっていることが望ましかったことから、1月18日に協議会は設立している。構成団体では、カツオ県民会議や、関係市町、県や大学、観光関係の団体が参画している。各事業計画では、目標とするKPIを設定している。KPIは文化庁指定の目標値があることから、それに沿う形で設定した。

- ・現在、県庁内で最終決裁しており、文化庁に送付するのは23日になる見込である。
- ・競争率は去年並で考えると6,7倍くらい。発表は5月末ごろ。認定される前提で考えなくてはならないので、県民会議会長の尾崎知事にもご意見を頂き、カツオ文化日本遺産推進協議会を先行して立ち上げた。会長に高知大学 受田氏。プロデューサーに高知大学 岡村氏。事務局体制等は未定。
- ・認定された場合、記念キャンペーン等、関係団体には何らか考えていただけると有り難い。柚子ロード認定の時には県庁舎に垂れ幕などもあった。

(3) 次年度の活動について

- ・次年度の当分科会活動については、次回の分科会においてご意見を頂きたい。次回分科会予定の2月18日までは次年度の県民会議の活動の方向性等も幹事会で考えられるだろう。その上で、分科会の活動をどうするか、分科会の形式のまま続けるかどうかなど、ご意見を頂きたい。

(4) その他

- ・第4回高知カツオ県民会議シンポジウム(2月5日)
- ・日本の文化講座(1月26日) 高知城歴史博物館

3. 次回の分科会の日程について

日時：平成31年2月18日(月)

場所：高知大学次世代地域創造センター2階セミナー室

4. 閉会